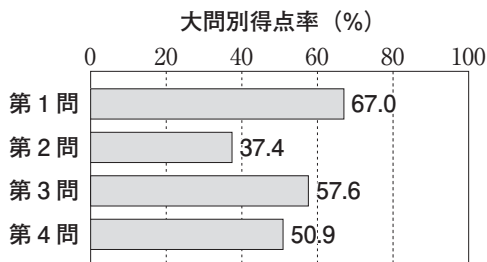
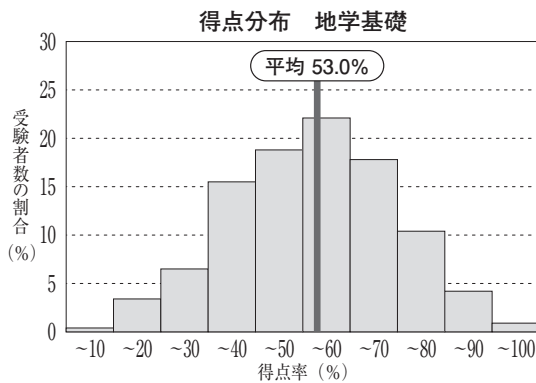


# 地学基礎

最後まで練習を積み、満点にこだわろう

## I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は26.5点であった。10月に実施した全国統一高校生テストの平均点よりも上がり、順調に知識を定着させられている受験者が増えているようである。「地学基礎」は「地学」に比べて学習項目が少なく、教科書をしっかりと理解することで十分に満点を狙える科目である。一つ一つの知識を確実に身につけて、着実に得点を伸ばしていくようにしよう。



## II. 大問別分析

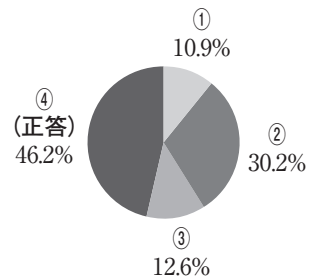
### 第1問 地球とその活動

仕組みを理解して覚えよう。

Aでは地震の観測についての総合的理解を確認した。初期微動継続時間と震源距離との関係についての問題は、2017年のセンター試験でも出題されている。解説にある大森公式は覚えておくと便利である。

Bでは火成岩の産状についての理解を確認した。解説の表を参考に、火山の形と特徴をまとめておこう。なお、火成岩の偏光顕微鏡観察に関する問題は、2017年と2016年のセンター試験でも出題されている。

### 問5 5 各選択肢の選択率



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、選択率の合計は100%にならないことがある。以下同様。

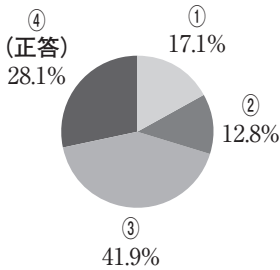
### 第2問 日本の気象と水の循環

大気の動きに関する知識を整理しよう。

Aでは冬型の天気図と気象についての総合的理解を確認した。冬以外の季節の天気図についても特徴をまとめておこう。

Bでは水の循環と大気の大循環との関係についての基礎的理解を確認した。地球上の水の循環に関する問題は、2015年のセンター試験でも出題されている。解説にある大気の大循環の図と、緯度による蒸発量と降水量の違いのグラフは、よく見て理解しておこう。

## 問1 6 各選択肢の選択率



## 第3問 太陽の進化

太陽の誕生から終末までをイメージしよう。

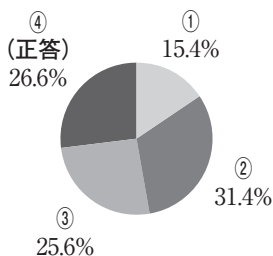
太陽のエネルギー源と進化についての基礎的理解を確認した。解説を参考に、太陽の進化の過程を整理しておこう。なお、センター試験では太陽に関する問題は頻出である。太陽の構造や地球との関係などについても確認しておこう。

## 第4問 地球の歴史

図の読み取りに慣れよう。

結晶片岩、地質構造、化石についての総合的理解を確認した。解説の図を参考に、断層のでき方を理解しておこう。また、アンモナイト以外の示準化石や示相化石についても整理しておこう。なお、地質断面図の読図に関する問題は、2016年と2015年のセンター試験でも出題されている。

## 問3 15 各選択肢の選択率



## Ⅲ. 学習アドバイス

## ◆センター試験の地学基礎について。

センター試験の「地学基礎」は新しい科目のため過去問が少なく、学習を進めるにあたって不安もあるだろう。しかし、センター試験の出題範囲は教科書に限られている。センター試験で高得点を得るた

めには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を反復し、教科書を徹底理解することが大切である。

## ◆これからの学習について。

センター試験本番において「地学基礎」は是非とも満点を狙ってもらいたい。そのために欠かせないことは、苦手分野や学習漏れをなくすことである。「地学基礎」は教科書の内容を逸脱することなく、基礎的で解きやすい問題の出題が予想される。満点を得るには、教科書の隅から隅まで完全理解を目指し、どの分野にも苦手項目が残らないようにしておきたい。

なお、入試本番では、必ず見直す時間を確保したい。例えば、センター試験では試験時間60分(基礎が付された科目2科目分の試験時間)のうち、10分程度を見直しにあてられれば理想的である。そのためには普段から制限時間よりも短い時間を設定し、負荷をかけた演習を行うことが有効である。

また、入試本番では、塗り残し、マークのずれはないか、など確実にマークできているかの確認を必ず行おう。

## ◆模試を活用しよう。

これから先の期間は、新しい問題集などに手をつけるのは避けよう。今まで取り組んできた問題の復習に注力してほしい。見たことはあるが、解けなかったという悔しい思いをしないように、今まで自分が学習してきた内容を最後の最後まで徹底的に復習しよう。特に、これまでの模試の解説を見直すことは直前対策として有効である。センター試験では過去問と類似した内容が出題されている。傾向を把握し、時間配分の訓練をするためにも、徹底的に過去問の演習を積むとともに、解説をしっかりと読み込むようにしよう。

また、今まで受けてきた模試の結果から、自分の得手不得手が改めてみえてくるはずである。それらの結果をもとに再度弱点を補強しておこう。